

## あの御方をレンタルする



学生時代、4月から京都市左京区のお寺で生活を始めて最初のお盆の出来事です。留守番をしていると奇妙なお客さんが来ました。「今年も24日と25日の二日間、お寺のお地蔵さん貸してくれはりますか」…目が…です。お地蔵さんを貸す？最初は何のことか理解できませんでしたが、帰山された内執事さんが教えてくださいました。お地蔵さまはお寺の境内から気軽に子供たちが待つ「地蔵盆」会場へと出張されることを初めて知りました。

京都市中では、8月24日に各町内で「地蔵盆」が盛大に行われます。子供たちには僅かになった夏休みの最後の楽しい行事で、昼間はお地蔵さんの前にテントを張りゴザを敷き、カレーライスやスイカを食べたり、ゲームをしたりと過ごします。夜は大人たちのカラオケ大会になったりします。少数派ですが、大日堂や閻魔堂がある町内ではその縁日でするところもあります。辻にお地蔵さんを祀ってない町内は、地蔵盆をするためにこうしてお寺へ行きお地蔵さんを借りてくるわけです。他の菩薩や如来さまを貸し出すことなどありませんが、地蔵さまにそれが可能なのは特筆するところです。

お地蔵さまは私たちが生活している娑婆の世界に、まるで深夜のコンビニのように、24時間温かく人々をお救いになろうと待っておら

れます。更にこの世に留まらず冥途の苦しみの世界にもいらっしゃいます。亡き幼子が集まる「賽の河原」では、「娑婆と冥途はほど遠いから、我を冥途の父母と思って暮されよ」とやさしくなげかけられています。三途の川に架かる橋の上には、一組の夫婦を導いている地蔵さまがいらっしゃいます。どうやらこの夫婦に縁のあるこの世の人が追善供養された功德によって、地蔵さまが自ら地獄へ出向き苦しみの世界から助け出し、今まさに無事脱出しようとしている場面だと思われま



京都の繁華街、寺町三条上るその一角に「<sup>やたでら</sup>矢田寺(西山浄土宗)」があります。本堂の御

本尊は珍しく地蔵さまです。それも足元が炎に包まれておいでです。平安時代、地獄の閻魔大王が「<sup>ぼさつかい</sup>菩薩戒」を受けたいとの要望で、当寺の住職の<sup>まんまい</sup>満米上人が、<sup>おののたかむら</sup>小野篁(小野小町の祖父)の道案内で<sup>ろくどうちんのうじ</sup>六道珍皇寺の井戸から地獄へ行きました。その際、上人は閻魔大王にお願いをして地獄の様子を見せてもらいました。すると、炎の煮えたぎる鉄釜の中に一人の僧侶がいることに気づきました。なんと僧侶はそこで苦しむ亡者(罪人)を一生懸命助け出しているのです。それに感激した上人は、その僧侶の姿を佛



像に刻み、本尊「代受苦地蔵」としてお祀りされたのが矢田寺です。

もし、お参りに行かれましたら、ご住職夫妻の手作り地蔵お守りをお勧めします。俊徳丸